

(算数)

「わかる・できる」を実感できる算数科の授業作り

～ 知って できて 活かして ～

大阪市立姫島小学校 授業改善・学力向上部

1. 研究主題設定の理由，および研究の趣旨

算数科の全国学力・学習状況調査や算数のしんだんの結果から，基礎的・基本的な学習の定着に課題があるということが明らかになった。そこで，平成26年度から算数科の研究を始め，問題解決学習を基盤とした5つの学習段階を踏まえた授業展開を図ってきた。初年度においては，「基礎的・基本的な学習内容の習得」をめざすと共に，〈出あう〉〈気づく〉段階に重点をおき，学習における興味・関心をもたせ，主体的に問題に取り組ませることをテーマに研究を進めた。2年目には〈考える〉段階に重点を置き，「自ら判断し，表現できる力の育成」をテーマにして研究に取り組んだ。

昨年度は〈振りかえる〉段階に重点を置き，集団思考の在り方について研究を深めた。アンケートによると，本校の児童は，8割以上の児童が算数の学習が分かる，楽しいと答えている。さらに，昨年度の3年生以上の学力経年調査の結果においても，大阪市の平均を上回り，基礎的・基本的な知識・技能の定着については，一定の成果が見られたため，本年の研究主題を「わかる・できる」を実感できる算数科の授業作り ～互いに表現し合う「学び合い」を通して～と設定し，望ましい人間関係づくりを基盤としながら，児童が自分の考えをもち，判断・表現をし，さらに「活用する力」の育成を図ることで，一人一人の確かな学力向上をめざすことをその趣旨とした。

2. 研究の概要

研究の視点については以下のように設定した。

①重点とする内容の決定 苦手とする項目を授業研究の単元として実施

○ 学力経年調査（3年～6年）まとめのテスト（1．2年）を分析し，市平均に比べて正答率の低い問題を明らかにし，その問題に関連する単元を重点指導項目として取り組む。

②学びの基盤作り これまでの学習の環境づくりを全学年で再確認する。

○ 朝の学習の時間を，算数・国語の基礎・基本の力を身につける時間とし，計画的に取り組む。

○ 算数コーナー（学級）：授業で学んだ「用語」「まとめ」等を教室に掲示し，授業に活かす。

○ 学習コーナー（全校）：職員室前にプリントを用意し，学習に対する意欲や意識を高める。（スキルアップタイム）

○ ICTの効果的な活用：スクリーンと黒板との提示の仕方，デジタルコンテンツの利用，タブレットの使用，動的な画像の提示

③家庭学習の充実 家庭学習強化週間の実施

○ 家庭学習強化週間を設け，進学先中学校の定期テスト期間に合わせ，家庭学習の課題をいつも以上に出す。また，春休みも宿題を出し学習のまとめと次の学年への準備とする。

○ 学校ホームページ上に家庭学習で活用できる学習プリントを掲載する。

○ 「家庭学習のてびき」を配布し、家庭との連携を図る。

④学習時間の確保 職員朝会や集会等の時間の見直し

○ 児童の朝学習の時間の確保と、学級での教師の見取りの時間の確保をする。

○ 職員朝会は原則金曜日だけに行い、その他は校務支援による連絡掲示板を利用する。

○ 全校朝会と児童集会は、週1回昼の時間に隔週で実施する。

3. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

①重点とする内容の決定

○ 前年度の学力経年調査(3～6年)の結果分析を通して、各学年の弱点となる単元を把握し、授業研究の対象として重点的に指導を行った結果、指導法の工夫や教材研究が進み、当該単元に対する児童の理解が深まった。

②学びの基盤作り

○ 「問題は赤線,まとめは青でかこむ」などノートの基本的な約束ごとを全学年で統一し、徹底して指導を行ってきた。結果、進級後もスムーズに学習に取り組める環境を構築することができた。

○ 自分や他の児童の考え等、途中の計算や必要だと感じたものが書き残してあるノートが作られるようになり、自宅学習の際に自分の考えの軌跡の振を振り返られるようになった。

○ 低・中・高それぞれの発達段階に応じた発表の話型を教室に掲示した。結果、児童は話し方を意識するようになり、対話的な活動が活性化した。

○ 習熟度別学習を実施している中・高学年は、コースを児童が自ら選択することで、主体的な学びの姿勢が育ちやすくなった。コースの選択には、保護者や指導者の助言も参考にしたが、基本的に児童がレディネステストや今までの学習を振り返って、単元ごとに自らに適したコースを選択できていた。

③家庭学習の充実

○ 進学先中学校の定期テスト期間に合わせて、家庭学習の課題を通常よりも多く児童にした。また、「家庭学習の手引き」を配布することで、保護者が家庭学習の重要性への気づきや、児童とともに取り組むきっかけを促すことができた。

④学習時間の確保

○ 朝会・集会は昼に実施しても何ら支障はないため、隔週で昼に実施した。また、職員朝会も校務支援システムの活用で代替し、職員朝会は週1回とした。これらの取組みにより、担任指導下で充実した朝学習が毎朝可能となり、基礎基本の定着につながった。

(2) 今後の課題

○ より多くの体験活動や表現活動を通して、学習を深めていく必要がある。

○ ペア学習や対話的な活動をより一層取り入れ、自分とは違った表現や見方・考え方があることに気づかせる。

○ 活かす段階の時間を確保するため、時間配分についてより一層の検討が必要である。

○ 文章題で問われている内容を理解することが苦手な児童が多いため、与えられた条件や状況を正しく読み取る力を育成する。